

新潟生活

niigata seikatsu

第21号

2014年3月
発行

目次

教えて先輩! ● 地元の合同企業説明会をきっかけに
カービングの魅力伝えたい
特集 ● [座談会] UIターン経験者が本音を語る!

～お子様が帰省された際に親子で将来を話し合ってみてください～

教えて先輩!
vol.39

地元の合同企業説明会をきっかけに

就職場所の選択で葛藤

大学4年生の時にマスコミ・IT関連のゼミに所属していたので、就職活動解禁後は学んだことを活かすため、マスコミやIT関係を中心に、企業説明会に参加しました。

私の時は、今より少し早い10月に就職活動が解禁されていて、早い人は翌年の4月、5月には内定をもらっていたので、正直、結構焦りがありました。当初は、関東と新潟県内の企業、どちらにするかで悩んでいたのですが、たまたま両親が長岡で開催される「合同企業説明会」の新聞広告を見付け、私に教えてくれたので、まずは行くだけ行ってみようと思い、参加することにしました。

長岡の合同企業説明会に参加

実際に参加してみると、首都圏で開催されていた合同企業説明会に何度か参加していたことと、地元での開催ということもあって、ほ

とんど緊張はありませんでした。会場では、多くの会社の担当者とじっくり話すことができたので、地元にも魅力的な企業がたくさんあることに気がきました。そして、それをきっかけに、説明会に参加していた「新潟日産モーター」の試験にエントリーしました。

試験では、何度も面接がありましたが、無事内定をいただくことができ、入社式では、私の希望通りの長岡店に配属が決まりました。実家から通えるということもあって、少しは親孝行ができるのかなと思いました。

改めて親に感謝しています

長岡での生活は、日々、地元の良さ、家族の



温かさを感じて過ごしています。親元を離れていた4年間は、当然ながら、炊事や洗濯を自分でやらなければならませんでした。しかし、今は仕事から帰って来ると食事が用意されていたりするので、親に対して素直に感謝できるようになりました。そういう意味では、一度親元から離れて生活したことが、良い経験になったと思っています。

私は24歳になりますが、まだ親に甘えさせてもらっているので、その分、感謝の気持ちを忘れずに、親孝行したいと思っています。



佐藤 正輝さん (24歳)

新潟日産モーター株式会社 長岡店勤務

高校を卒業後、東京の大学に進学。4年間の大学生活の後、地元長岡にUターン就職。就職活動を始めた時は、就職先を関東の企業にするか、地元企業にするかで迷いがあったが、長岡で開催された合同就職説明会の参加をきっかけに、地元企業への就職を決意。



教えて先輩!
vol.40

カービングの魅力伝えたい

進学のために仙台へ

福祉と保育を同時に学びたかったので、仙台にある医療福祉の専門学校に進学したのですが、さらに保育を学びたいと思い、3年生の時に仙台の女子大学に編入しました。卒業後は、仙台市内の福祉施設で働き、約3年前に三条に戻ってきました。

帰郷後は、保育園で働いていたのですが、1年ほど経った時に、病院の待合室にあった雑誌を何気なく読んでいたら、*カービングの記事が掲載されていました。それまで、カービングというものを全く知らなかったのですが、娘を喜ばせようと、カービングの雑誌を買い、見よう見まねでりんごにキャラクターを彫ったのが始まりでした。娘が喜んでくれたり、周りの友人達が褒めてくれるので、ブログ



*カービング…ナイフ1本で果物や野菜、石けんに彫刻するタイの伝統工芸。

にも作品をアップし始めたのですが、いつの間にかカービングにハマっていました。

タイでカービングを学ぶ

その後は、カービングの勉強をするためにタイまで行き、学校に通ったのですが、学校では、カービングをひたすら彫りつづけるという感じでした。

私が学校に行っている間、子供は、保育園のような所で預かってもらったのですが、言葉を覚えるのが早く、友達もできて、楽しそうに過ごしていたので本当に助かりました。学校には日本人も多く、真剣にカービングを仕事にしたいと思っている人ばかりだったので、短い期間でしたが充実した留学生活を経験することができました。



坂井 宏子さん (31歳)

カービング講師 Soap & Fruit Carving教室 Pastel Green代表
URL:<http://pastel-green.com>

地元の高校を卒業後、仙台の専門学校に進学し、そのまま仙台で就職。2011年に三条へUターン。ある時、病院の待合室で雑誌に掲載されていたカービング作品を見て、その美しさに感動。保育士の傍ら、作品作りを開始。現在は三条を中心に「カービング」講師として活躍中。



地元を見つめ直してみよう

おそらく皆さんと同じように、高校時代は地元がつまらない、刺激のない街だと思っていました。でも、三条に戻って、地元で頑張っている若い起業家などに会おうと、学生の時より、深い関わりや連帯感を感じることが出来ます。もちろん、学生時代の友達もいるので楽しいのですが、仕事で繋がることで大きなモノを手に入れたような気がします。

三条市は、起業を目指す方を対象に必要な経営知識とノウハウを体系的に学べる起業塾を開催しており、私の場合、それに参加したことで、ビジネスという視点で自分の夢や目標を捉えることができるようになったので、とても良かったと思います。

カービングの楽しさをより多くの人に知ってもらいたいので、いつか新潟市内でも教室を開きたいと考えています。

Uターン経験者が本音を語る!

本県に戻ろうか迷っている、定住しようか迷っているという人は、その後の仕事やライフスタイルなど、様々な不安や悩みについて誰かと共有したいのではないのでしょうか。そこで今回は、Uターンを経験した先輩方に当時を振り返っていただき、Uターンを考え始めたきっかけや不安、そしてにいがた暮らしの魅力などについて、座談会形式で語っていただきました。

新潟へのUターンを考えたきっかけは何でしたか?

伊藤●実は、都内の大学を卒業後は、そのまま都内で就職しようと思っていた、約50社の企業を受けたのですが、ことごとく落とされました。そんな状況の中、積極的に情報提供してくれる母親から、県が発行している情報誌「新潟生活」が送られてきたり、表参道の*ネスパスに行って情報収集するよう勧められたりしたことで、次第にUターンを意識するようになりました。

恩田●私は農村地域の長男として保守的なところで育ち、帰らなければならぬという

感じだったので、動機としては少し後ろ向きだったかもしれませんが、東京でやり切ったという感覚もなかったの、どうしても都落ちのようなイメージが拭えなかったのが本音です。正直なところ、新潟(長岡)を好きになったのは、実際にUターンしてからですね。

鈴木●私は母が新潟県出身で、幼い頃からよく遊びに来ていたのですが、新潟の人は心が広く、ヨソの人でもそのまま受け入れてくれると感じていました。ずっと居心地が

いいなと思っていましたし、たくさん良い思いをさせてもらっていたので、将来、絶対ここに住みたいと思っていました。

戸嶋●私の場合は、アルビレックス新潟ですね。元々サッカーが好きで、よく観戦していたのですが、ちょうど、J1に昇格するかしないかの時期に、アルビサポーターが大挙して大阪に乗り込んで来た時があって、道を尋ねられた際の新潟弁が、妙に懐かしく感じたんですね。それで、やっぱり新潟がいいなと。そこから、地元新潟に対する思いが強くなって、帰りたいと思うようになりました。

Uターンの時は、やはり仕事や就職の不安があると思うのですか?

伊藤●東京の場合、選べる職種は多いのですが、その分競争相手も非常に多いです。そして、あの満員電車で通勤しなければならないなど。新潟の場合は、東京と比べると選べる職種は少ないかもしれませんが、その分競争相手も少ないし、ゆとりがある生活を送れると思えました。

要は、その人が「生活環境」と「仕事内容」のどちらを優先したいかだと思うのですが、私の場合は、沈んだ顔で満員電車で揺られる大人の顔を何度も見ていたので、それだけはなりたくないという思いから、生活環境を優先しました。

実際、新潟県内の企業を受けてみると、東京での就職活動の経験で百戦錬磨になって

いたのか、都内で就職活動していた時よりも苦勞せずに内定をもらうことができました。

恩田●私は、東京で広告デザインの仕事に関わっていたのですが、新潟市ならまだしも、長岡市で同じ職種に就くのは難しいかなと諦めていました。それでも、インターネットで検索していたら、「ネスパス」がヒットしたので、とりあえず足を運んで、登録しました。すると、色んな情報が送られてくるようになり、その中にあった長岡市の

広告代理店の試験を受けた結果、採用が決まりました。

私の経験から言えるのは、頭の中だけで考えていては、やはり難しいと思います。確かに不安はあると思いますが、実際に動き出して、少しずつ手応えが出てくると解消されていくので、いかに早く行動に移すかだと思います。

鈴木●私は、東京にある外国人記者向けに様々な会見を設定する団体の契約社員でしたが、何とか内定をもらいました。それでも、やっぱり新潟で英語を使った仕事に就きたいと思い、ネスパスやハローワークに通ったのですが、残念ながらロシア語や中国語ならまだしも、英語の仕事がほとんどないということがわかりました。

そこで、一旦、内定をもらった団体に就職したのですが、新潟が好きで、新潟の人が好きで、新潟に住んで働きたいという気持ちが強かったので、それなら公務員がいいのかなと考えるようになりました。そして、仕事の合間の時間に公務員試験の勉強をするようになり、新発田市役所に2度目の挑戦でやっと合格できました。

伊藤さんが言うように、私の場合は新潟という場所で働くことを優先しました。

戸嶋●私も、確かに都落ちのようなイメージはありましたけど、デザイナーという仕事柄、優秀であればどこでも食べていけると思いましたし、実際に新潟から世界に出て活躍している同業者もいたので、自分次第だと



ネスパス
※ネスパス…都内の表参道にある新潟県のアンテナショップ。2階の「Uターン情報センター」「にいがた暮らし相談窓口」では、求人、企業情報や生活情報を提供し、新潟へのU・Iターン希望者を支援。

い間かせて戻ってきました。

就職先については、父がカメラマンなのですが、父を使ってきているデザイン事務所から声を掛けていただいて、入社することになったので、恵まれていたと思います。就職活動といっても、大阪にはネスパスのようなものもありませんし、インターネットで企業検索したくらいでした。

恩田●戸嶋さんのケースは、地元だからこそできることだと思うので、そういうのは活用すべき利点ですよ。

戸嶋●そうですね。とても感謝しています。

実際にUターンしてみて、“にいがた暮らし”の良い点は何かですか?

伊藤●東京にいる時は、デパートのディスプレイを見て、「あー、春が来る、夏が来る」と作られた季節感を先取りして感じていましたが、新潟では、山が赤くなった、白くなったなど、日々、本当の季節感を感じることができると、とても良いと思います。

恩田●長岡にUターンしてからは、地元しかない良いモノを探すようになりました。いざ探してみると、良いモノや良いお店がたくさんあるので、プラスの意味でとてもギャップがありました。

また、私の子どもはまだ小さいのですが、豊かな自然環境があって、頼れる家族が近くにいるので、子育て環境がとても良いと思います。単純に道路や土地が広いので、危険が少ないこともそうですね。

あと、ある医師から聞いた話では、長岡は病院と医師会の連携がよく取れているそうで、救急患者のたらい回しが無いそうです。その点だけでも良い街だなと思えます。



やすらぎ堤

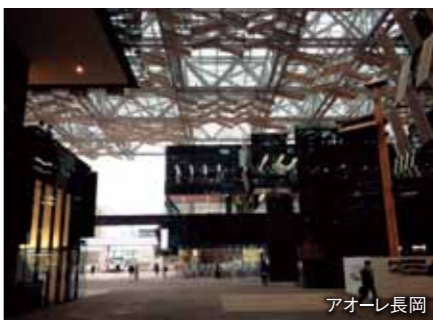
“にいがた暮らし”をどのように満喫していますか?

伊藤●勤めていた時は、休日になると電車で新潟駅まで行き、そこからレンタサイクルで、やすらぎ堤に行ったりして、ピクニック気分を味わっていました。東京では、買い物して疲れたらカフェで休憩して、また買い物という感じだと思いますが、新潟には、それぞれが自由に過ごせる環境があるので、とても満喫できます。

また、商店街で古本屋をやっていると、女子高生から90歳のおじいちゃんまで立ち寄ってくれるので、街の人を身近に感じます。世間話によって、知らなかった街の様子や歴史を知ることができ、人の温かさを感じるのと、とてもいい時間を過ごしています。

恩田●長岡には「アオーレ長岡」という、市民協働をテーマにした市庁舎ができましたが、驚くくらい子ども達が走り回っていたり、市庁舎なのにお酒を飲むこともできたり、とても革新的だなと。

私も市民協働に関わっていて、町内会だけでは会えない人達と、この街をどうやって良くしていくかを考えているので、とても楽しいですね。面白いと思えることに積極的に関わっていくと良いと思います。



アオーレ長岡

いと思っていた車の免許を取得して、実際に運転しているの、そう考えると新潟に来てからの3年間で本当に成長できたと思います。

戸嶋●もちろん、サッカーのアルビレックス新潟ですね。そうは見えないかもしれませんが、私は郷土愛がとても強いのだと思います。新潟のサッカーは、走るし、転ぶし、とにかく一生懸命なんですよ。みんながアルビレックス新潟を応援して、県外出身の選手とはいえ、新潟を背負った選手達が頑張っているのを見るのが、とても好きです。アウェーの試合に行くと、特にそう思います。

恩田●よく郷土愛って聞きますが、都会では、一生住むつもりでマンションを購入したのに、そこを地元と思えない人も多いみたいですよ。そう思うと、郷土愛は誰にでも当てはまるものではなくて、地方の人の特権なのかもしれませんね。



©ALBIREX NIIGATA

反対に、困ったことや後悔したことはありますか?

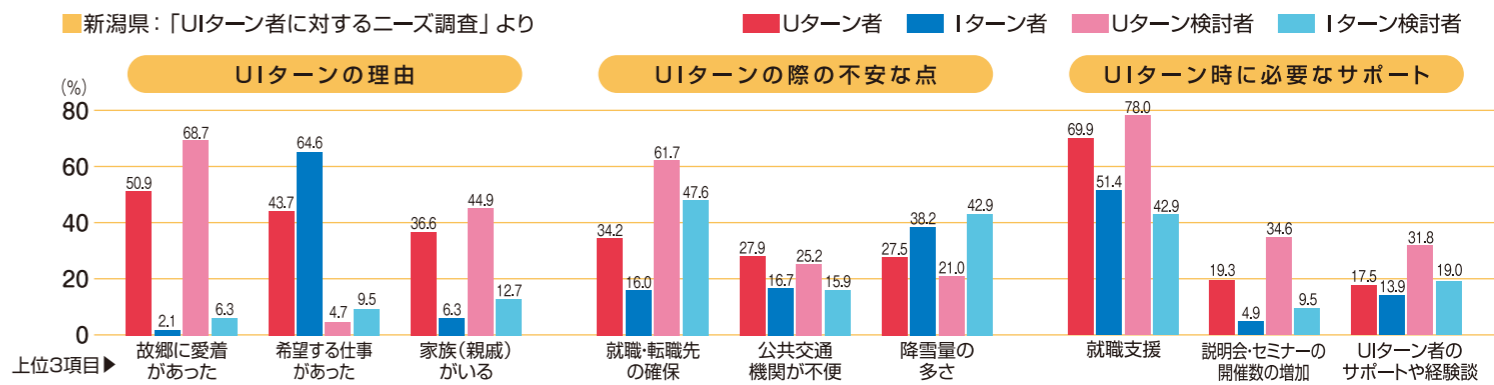
伊藤●東京では、学生だったということもありますが、周りに多様な職業や働き方をしている人がいて、日常的に様々なジャンルの人と接する機会が多かったように思います。でも、新潟の場合は、自分で行動しなければ、職場と自宅の往復になりがちで、色んな人との出会いが広がりにくいかなと感じます。

恩田●私がUターンしたのは、2004年で、ちょうど中越地震が起きた年だったので、そういう意味では戻ってきたことをとても後悔しましたね。

あと、伊藤さんの話ですが、私の場合は逆で、東京で働いていた時は職場に泊まることも多くて、ほとんど隣人と顔を合わせることがありませんでした。ですから、Uターンしてからの方が、人間関係は豊かになったと思います。

(裏面へつづく)

■新潟県：「Uターン者に対するニーズ調査」より





鈴木●当たり前ですが、友人がいないということですね。あと、寒さに弱いので、やっぱり冬は苦手かなと。

戸嶋●私の場合は、公共交通機関が脆弱な点ですね。我が家は所有する車が1台なので、妊娠していた妻が、すぐ近くのクリニックまでどうやって行くかを考えてみたら、タクシーしかありませんでした。新潟の場合は、車を1人1台所有していることが前提のような気がして、その点がネックかなと。

「雪」については、どうですか？

伊藤●冬は、どうしても雪かきをしなければならぬので大変ですが、最近は、運動不足を解消できると思考を変えたら、楽しくなりました。反対に、今年のように少雪だと「何か運動不足だなー」と思ったりします(笑)。

恩田●正直、長岡にいと雪は実害だと感じてしまいます。ただ、そうは言っても、ウィンタースポーツをする人にとっては、とても楽しみにしているものでもありますし、私も数年前から登山を始めたのですが、初春に残雪の登山をするのが、とても楽しいということがわかったので、文化的に雪に親しんでいます。

鈴木●車の運転に慣れていないので、雪道の運転は苦勞しますね。私にとっては、命懸けで通勤しているつもりですが、地

元の人は、どうってことないって感じで驚きました(笑)。

振り返ってみて、Uターンに必要なだったと思う情報やサポートは？

伊藤●東京に住んでいた時は、新潟県内のより詳しい情報が欲しかったです。例えば、新潟県で独自の活動をしている面白い人の情報とか。そういう人って、結局、東京に集まってくるのだらうと思っていましたが、Uターンしてみて、初めて新潟にも面白い人がたくさんいるということを知りました。

鈴木●私の場合は、“挫折談”を聞く機会があったら良かったなと思います。最初のうちは、大学を卒業して、大手企業にストレートで就職が決まった人の話に夢を膨らませていましたが、内定が出ずに不安な日々が続くと、逆に苦勞してやっと内定をもらった人が失敗した時にどう考えていたかとか、どういう行動を取ったかとか、そういう体験談を聞く機会が欲しいと思うようになりました。

伊藤●確かに、挫折したことがある人の方が相談したくなりますし、話を聞きたくなりますね。

恩田●今はある意味、失敗前提の世の中なので、どうやって乗り越えたかという話の方が共感を得られるようですからね。

ほかに、何か感じていることはありますか？

戸嶋●帰って来て思ったのが、新潟の人は、新潟のことを馬鹿にするのが上手いというか、たまに、そこまで言わなくてもいいのに、って思う人がいますよね。

恩田●ある講座を受けた時に、先生が「新潟の人は自己批判精神が強い」ということを言っていましたよ。

戸嶋●なるほど。何か、分かる気がします。

鈴木●新潟は食べ物がおいしいし、空気が

おいしく自然が豊かで、外の人から見ると凄いモノがたくさんあるのに、新潟の人は当たり前であり過ぎて自慢する程のものではないと思っているんじゃないでしょうか。

戸嶋●確かに。私の大阪の友人が新潟に遊びに来た時に、朱鷺メッセに連れて行ったのですが反応はイマイチで、反対に田んぼなんかを見て、とてもはしゃいで盛り上がりしていましたね。

伊藤●私自身も、一度県外に出たからこそ、新潟の良いところを見付けられるようになったと思います。

新潟にUターンするか迷っている人へのメッセージをお願いします

伊藤●実際にUターンして住んでみて、初めて気付く良さ、発見がありました。何も無いと思えば、何も無いかもしれないですが、新潟はアンテナを張れば張るほど、とても面白い場所だと思います。

恩田●まずは、地元の好きなところを見つけて戻ってきてもらいたいですね。そして、そこにしかないこと、そこでしかできないことを楽しいと思えるようになると、そこに住む意味につながっていくと思います。

鈴木●私自身、民間企業の採用試験や公務員試験で何度も失敗し、本当に辛くて不安な毎日を過ごしました。そうした経験から、チャンスを掴むためには諦めずに、何でも何度でもチャレンジして欲しいということをお伝えしたいと思います。

戸嶋●実際に住んでみると、新潟をもっと良くしようと考えている人や同じ思いを持って戻ってくる同世代の人がたくさんいます。Uターンするか迷っている人がいるとすれば、「迷っている時点で、あなたは帰りたいんだよ」と言いたいですね。

Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで無料送付しています。

新潟生活

- 新潟にUターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介など

新潟Uターン情報

- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせなど



送付をご希望の方は、ニイゲットでお申込み、又は新潟県県民生活課までお問い合わせください

新潟くらしのポータルサイト **niigET** もご活用ください

<http://www.niiget.jp>

ニイガタビト

週替わりで「新潟人」にフォーカスした特集を掲載しています

オススメ情報

新潟のグルメ・イベントなどの口コミ情報を週5回お届けします

注目情報

長期にわたって開催されるイベントや、参加募集についてお知らせします

新潟トピックス

新潟県内の社会・経済情報を見ることができます



お申し込み・お問い合わせ

新潟県県民生活課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)

